

未来への提言～西高生の主張～

兵庫県立姫路西高等学校 校長 藤井 雅英
教諭 吉村 恭子

1. はじめに

生徒自身と社会とのつながりを考慮に入れ、自分の考えを「説得力」を持って他人に伝える「ことばの力」の育成を目的に、取り組みのタイトルは「未来への提言—西高生の主張—」とし、総合的な学習の時間を活用した。対象生徒は1、2年生である。

2. 実践の概要

「未来への提言—西高生の主張」では、教師間の共通理解として、

「われわれの生きている社会にはどのような問題が存在しているのかということに関心を持ち、その問題に対してより深く知ろうとする態度を養う。その上で解決に向けて共に生きる人々と考え、話し合う経験を通し、自分の意見を持てるようにする。さらに、それを取り巻く人々に、いかにすればよく伝えることができるかを考える」

という狙いを確認した上で実践を進めた。

次に、上記の狙いを実現するために、生徒の目標として、

①興味・関心のあるテーマを選び、自分で調査・研究し、自分の意見を文章で表現

することにより、学習における探究的な態度を身に付ける

②自分の考えを他者に伝える手段として文章を書くことで、表現力や説得力を養う

③多様な考えを受け入れることで、自分の学びを振り返り、今後の学びの方針を探る

の3点を設定した。

3. 新聞の置き場所と整理方法

本校は生徒の図書館利用数が非常に多いので、新聞の置き場所を図書館内とした。入り口正面に設置すること



で生徒の注目度も高くなり、「未来への提言」に取り組んでいる1、2年生だけでなく、3年生も新聞を手にする生徒が多かった。整理は図書館担当教諭が行い、倉庫に保管した。

4. 実践の内容

①授業での取り組み

[学習計画]

配当時間	内 容
事前学習	①興味のある記事の幅広い収集 ②自分の所属するチームのテーマに沿った記事の収集
3	①意見文の書き方の学習・演習 ②それぞれの記事を基にしたグループごとの情報交換(以下チーム別で実施)
2	①テーマ別の話し合い ②意見文の作成(800字)
2	①意見文を基にした意見交換 ②相互評価シートを活用した意見文の作成力の向上
3	討論・評価、チームの最優秀者選出
1	各チームそれぞれの最優秀者による発表会、討議

合計 11 時間

事前学習として興味ある新聞記事を収集してノートに貼付し、自分の意見を創るための情報収集を行った。

学習形態は討論・相互評価を行いやすいように少人数編成のチームを作った。その際、クラスを超えたチーム編成にした。1年生 11、2年生 15、計 26 チームを組織し、授業を進めた。チーム名は「環境」「情報・通信」「科学・技術」など、学習内容が分か

りやすいものにした。

②授業の様子

[記事収集]



[情報・意見交換]



[各グループ代表者による発表会]



チーム最優秀生徒 記事・意見文(一例)

記事



読売新聞・2014・8・19(火)付



神戸新聞・2014・8・23(土)付

節度ある発電を

近代社会の生活は電気なしには有り得ない。しかし、現在主流になっている火力発電や原子力発電は環境に大きな負荷を与えている。そこで、近年急ピッチで設置が進められているのが太陽光発電だ。太陽光発電は火力発電や原子力発電とは違い、有害物質をほとんど出さない。また、資源を地中から掘り出す必要もなく、枯渇する心配もない。だから

ら太陽光パネルを設置すべきだと人は言う。

しかし、ここで私の中に一つの疑問が生じた。太陽光発電は本当に環境に負荷を与えない、安全な発電方法なのだろうか。企業や政府は、私たちに前向きな情報しか与えていないように感じるのだ。原子力発電の時でも当初は、危険な物質を扱うが十分に対策をしているから安全で、温室効果ガスを排出しないエコな発電方法だと、うたわれていた。その結果が福島での事故だ。

今回もあまりに前向きな宣伝に不自然さを感じた私は、太陽光発電について詳しく調べてみることにした。すると、見落としがちな問題点が幾つか見つかった。

まず一つ目は、太陽光発電は有害物質を排出しないが、太陽光パネルの製造過程で大量の有害物質が排出されているということだ。専門家は長い目で見ればエネルギー収支はつくと言っているが、今のようなスピードで製造を続けていけば、太陽光発電の効果が出る前に環境が悪化してしまうのではないだろうか。やはり、節度ある利用を心掛けるべきだと私は思う。安全だからと使い過ぎるのはあまりにも愚かだ。

二つ目は、太陽光パネルの中にはカドミウムという毒性物質を含んでいるものがあるということだ。通常利用では漏出することはないそうだが、危険物質を扱っている以上、用心すべきだと私は思う。

結局、世間はそれでも太陽光発電は安全だと結論づけているのだが、自分の身を守るこ

とができるのは自分だけ。事前調査を怠らずに、その危険性を十分に認識した上で利用していきたい。正しい知識で防げる事故もあるはずだ。

この生徒は、複数の新聞から関連する記事を見つけ出し、さまざまな知識を得た上で、自らの意見を構築しようとしている。一般的には、各家庭では一つの新聞でしか情報を得ることはできないが、多種の新聞があることを積極的に利用する生徒が見られたのも喜ばしい成果であった。

②アンケートの結果

事後に実施したアンケートから抜粋した意見・感想を以下に示す。

- ・ 普段新聞を読む習慣がないので、新聞を読むいい機会になった。
- ・ 情報を集めるために新聞を見ていて、いろいろな情報が掲載されていて楽しかった。
- ・ 新聞の面白さを感じることができた。
- ・ この授業がなければ新聞を読むことは恐らくなかったと思われるので、たまに面倒に思うことはあったけれど良かったと思う。
- ・ わが家では新聞を取っていなかったが、この授業を機に新聞を取るようになった。
- ・ 新聞やニュースで問題となっていることを他人事だと捉えていたが、自分のこととして置き換えて対策等を考える力がついたと思う。
- ・ テーマや社会について、関心を深めることができた。

- ・ 日ごろから、新聞やニュースなどを見る習慣がついた。
- ・ 他の人のノートを見てみると、いろいろなものの見方があるのだなと感心した。
- ・ 自分では気付けないことも、人の意見を聞くことで解決できた。
- ・ もっと意見を持って、説得力のある文章を書けるようになりたい。
- ・ 一つの記事を、深く掘り下げていくことはあまりないので良い経験になった。
- ・ 現代社会に対する理解や知識が足りないと感じた。

5. 実践の感想・今後の取り組み

アンケートの結果からも、新聞記事を通して社会の出来事に対して、興味を持ち関心を深める良い機会になったようである。周囲と意見交換することで、人の意見を聞く力が身に付き、周囲に自分の意見を伝えたいと思う気持ちも強くなったようである。

また、これまで文章を書くことに対して苦手意識を持ち消極的だった生徒も、今回の取り組みを通して苦手意識が薄らいだ生徒も多くいた。

今後は、ディベート等にも取り組み、自分の意見を周囲に納得させる力がつくような活動を展開するつもりである。そのためにも、さらに多くの新聞に触れる機会を増やし、いろいろな視点からの情報を得、その中で自分の意見をまとめていく活動を続けていきたい。